

(別紙様式3)

令和2年3月31日

## 研究開発完了報告書

住所 三重県津市広明町13番地  
管理機関名 三重県教育委員会  
代表者名 教育長 廣田 恵子

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記のとおり報告します。

### 記

#### 1 事業の実施期間

令和元年5月16日(契約締結日)～令和2年3月31日

#### 2 指定校名・類型

学校名 三重県立宇治山田商業高等学校  
校長名 廣島 朗  
類型 グローカル型

#### 3 研究開発名

「観光都市 with SDGs」～伊勢志摩！未来創造プロジェクト～

#### 4 研究開発概要

##### (1) SDGs推進プログラムの開発

###### ① SDGs基礎プログラム(教科横断的な視点)

各教科・科目でSDGsに関連する知識・技術を育成するとともに、SDGsについて造詣が深く生徒への講演や指導、教員研修等を行うことができる者や企業でSDGsを担当している専門家等から、貧困の根絶(経済や社会開発)と持続可能な社会(環境)の両立や不平等(格差)の是正について学ぶ機会を設ける。

###### ② SDGs探究プログラム

科目「課題研究」において、1・2年次で学習したSDGsの知識・技術を活用し、伊勢市内のグローバルカンパニーへのインターンシップや廃棄食材を使用した商品開発等を実践し、思考力・判断力・表現力等を高める探究的な学びを実施する。

###### ③ SDGs語学力向上プログラム

語学力の向上や異文化理解を深めるため、皇學館大学等の留学生との交流会や校内外の

英語スピーチコンテスト等への積極的な参加を推進する。また、学校設定科目「グローバル・コミュニケーション」を設置し、留学生等と福祉、医療、環境等の地球的規模の課題に関するディスカッション等をとおして、英語コミュニケーション力の向上を図る。

(2) 観光都市を描くプログラム開発

① 伊勢志摩PRプログラム

科目「課題研究」において、観光資源（自然・歴史・食等）が豊かな伊勢志摩地域を活性化するため、「勝手に伊勢志摩観光大使（仮称）」等の取組を行う。また、広く国内外に伊勢志摩の魅力を発信し、観光客の増加を図るため、伊勢市が進める「伊勢市・グローバル・オープン・イノベーション事業」に参画する。

② 国際交流プログラム

海外交流アドバイザーの支援を得ながら、生徒が国内外で国際交流活動（観光先進国への海外研修、三重県が観光協定を結んでいる台湾との交流等）を推進し、主体性・積極性等を育成するとともに、観光先進国から、伊勢志摩地域を観光都市として確立する手法等を学ぶ機会を創出する。

(3) 効果測定の開発・検証

① パフォーマンス・ポートフォリオに関する評価規準の策定

- 英語によるディベートやディスカッション等のパフォーマンス、課題研究及び校外における活動等に係るポートフォリオを評価するための評価規準を策定する。

② 資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用した各種プログラムの効果測定

- I G S株式会社と連携し、資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用して生徒の資質・能力の伸びを把握し、各種プログラムの効果を検証する。

③ 外部評価

地域・コンソーシアム等への提言等を含めた発表会において、課題研究の成果を地域社会に発信し、アンケート等により外部有識者の評価を受ける。

5 教育課程の特例の活用の有無  
学校設定教科・科目を開設する

6 管理機関の取組・支援実績

(1) コンソーシアムについて

## グローバル人材育成コンソーシアムみえ



① コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名
宇治山田商業高等学校	学校長 廣島 朗
伊勢市役所	産業観光部 部長 須崎 充博
皇學館大学	文学部コミュニケーション学科 教授 豊住 誠
伊勢農業協同組合	営農部 部長 河井 英利
ULジャパン	人事総務部 部長代理 福村 伝史
海女小屋 はちまんかまど	代表取締役社長 野村 一弘
三重県教育委員会事務局高校教育課	課長 諸岡 伸

② 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年7月1日	コンソーシアムを組織
令和元年10月2日（第1回）	<p>第1回会合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事業概要と評価について説明</li> <li>・ SDG s 推進プログラムを学校全体の取組として進める方策について検討 ⇒SDG s アドバイザーによる教員向け研修会開催を決定</li> <li>・ 観光都市を描くプログラムの充実を目指した課題研究の内容検討 ⇒課題研究は複数講座で実施しており、各講座の観光の取組（商品開発、外国人向け観光HIP作成等）を融合することで、学校としての観光教育を進める方向性を決定</li> </ul>
令和元年10月31日（第2回）	<p>第2回会合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国サミット（10/24開催）の報告</li> <li>・ SDG s 推進プログラム進捗状況等について ⇒SDG s アドバイザーによる教員向け研修会に加え、学年の枠を超えた生徒向け学習会の内容を報告 ⇒全授業で、各科目の内容と関連するSDG s の視点を踏まえた授業実践を決定</li> <li>・ 観光都市を描くプログラムの充実を目指した内容検討 ⇒コンソーシアム参加企業（ULジャパン）へのインターンシップを決定 ⇒コンソーシアム参加大学（皇學館大学）と連携したディスカッションプログラム等を検討</li> </ul>
令和2年1月31日（第3回）	<p>第3回会合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成果発表会を見学</li> <li>・ 発表会から本年度取組の振り返り ⇒校内英語スピーチコンテストの優秀者2名の発表により、語学力が向上していることが分かり、プログラムの有効性の高さを共有 ⇒SDG s の視点を踏まえ、課題解決型学習により、環境問題に関するアプリ開発など、SDG s の取組が浸透していることを共有</li> <li>・ 次年度に向けて ⇒海外研修（スウェーデンとマレーシア）の実施</li> </ul>

	内容を提案し、SDGsの理念を持った企業訪問や、伊勢志摩のエコツアーなどの作成等について、研修プログラムを検討
--	---

(2) カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーについて

① 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

<カリキュラム開発専門家（SDGsアドバイザー）>

東北大学助手 三橋正枝 都度依頼し謝礼支払い

<海外交流アドバイザー>

愛知労働局外国人雇用管理アドバイザー 神田すみれ 都度依頼し謝礼支払い

② 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年6月17日	校内地域課題研究委員会に出席 各プログラムの本年度スケジュールについて協議
令和元年7月1日	校内地域課題研究委員会に出席 SDGs基礎プログラムについて協議
令和元年8月30日	SDGsをテーマに教員校内研修会を実施
令和元年9月13日	校内地域課題研究委員会に出席 SDGs基礎プログラムについて、各教科・科目から出されたアイデアをもとに協議
令和元年10月9日	海外交流アドバイザーと海外研修（スウェーデン、マレーシア）について協議
令和元年10月25日	校内地域課題研究委員会に出席 生徒向けSDGs講演会の内容について協議
令和元年11月8日	校内地域課題研究委員会に出席 次年度の課題研究テーマ「観光」について協議
令和元年11月20日	次年度課題研究について、事業担当と打ち合わせ
令和元年11月21日	校内地域課題研究委員会に出席 観光・環境・ダイバーシティ・イノベーション・SDGsの観点で、次年度の課題研究テーマ9つについて協議
令和元年11月28日	3年生「課題研究」全9講座を視察、担当教員と協議
令和元年11月29日	校内地域課題研究委員会に出席 12月のマレーシア研修視察に向けて協議
令和元年12月11日・12日	SDGsをテーマに生徒向け講演会を実施
令和元年12月19日	校内地域課題研究委員会に出席 沖永良部島見学について協議

(3) 地域協働学習実施支援員について

① 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

伊勢志摩ビデオサービス（株）役員 堀江しおん 都度依頼し謝礼支払い

② 実施日程・実施内容

日程	内容
令和元年6月13日	2年情報処理科「ビジネス情報管理」の授業に参加 伊勢志摩PR動画作成について指導および助言
令和元年9月19日	2年情報処理科「ビジネス情報管理」の授業に参加 伊勢志摩PR動画作成について指導および助言
令和元年11月19日	2年情報処理科「ビジネス情報管理」の授業に参加 伊勢志摩PR動画作成について指導および助言

#### (4) 運営指導委員会について

##### ① 運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職	備考
高見 啓一	日本経済大学 准教授	学識経験者
矢部 一成	I G S 株式会社 教育事業部マネージャー	グローバルに活躍する教育分野の企業
生川 哲也	三重県雇用経済部国際戦略課長	関係行政機関職員
三田 泰久	株式会社アーリー・バード 代表取締役	地域のグローバル企業
諸岡 伸	三重県教育委員会事務局高校教育課長	関係行政機関職員

##### ② 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年8月28日(第1回)	第1回会合 ・ 事業概要について説明 ・ 「SDGs推進プログラム」と「観光都市を描くプログラム」について、各プログラムの方針を決定
令和元年3月2日(第2回) (学校の臨時休業によりメールでやり取り)	第2回会合 ・ 本年度の取組について説明 ・ 次年度のプログラムに対する意見と方向性を確認

##### (5) 管理機関における取組について

###### ① 管理機関(コンソーシアム含む)における主体的な取組について

- ・ 県事業「未来を拓く職業人育成事業」のうち、地域活性化に貢献する取組の研究校に指定
- ・ 「みえ未来人(みらいびと)育成塾」(県内の高校生と県外の高校生が英語で世界や地域の課題についてディスカッションするなど、グローバル人材の育成)
- ・ 県事業「新学習指導要領に対応した英語教育改善事業」の研究校に指定
- ・ 県事業「三重県高校生海外研修旅行」(県内高校生10名のうち宇治山田商業高等学校の生徒1名分を支援。)
- ・ グローバルインターンシップや商品開発への協力(コンソーシアム)
- ・ 事業成果報告会を開催(コンソーシアムと共催)

###### ② 事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・ 新規の県事業を立ち上げ、継続して地域と協働した取組やグローバル人材の育成に向けた取組ができる支援体制を構築予定

###### ③ 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

なし

#### 7 研究開発の実績

本研究開発において、「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成するため、「地球市民力(課題解決力、論理的思考力、地域への貢献力、語学力)」と「未来創造力(企画力、調整力、実践力、突破力、創造力)」を身に付ける「SDGs推進プログラム」と「観光都市を描くプログラム」をコンソーシアム含む地元企業等と連携して実施している。

##### (1) 主な取組の実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
環境教育アドバイザーによるSDGsワークショップ等を実施					1回						1回	
各科目の内容に沿ったテーマでSDGsに関する授業を実施	全科目で1回以上実施											
科目「ビジネス情報管理」において、外国人向け伊勢神宮の正しい参拝方法等のウェブサイト作成	通年											
科目「ビジネス情報管理」において、外国人向け伊勢志摩PR動画を作成	通年											
科目「ビジネス情報管理」で実施した取組を伊勢市長へプレゼン提案							1回				1回	
科目「課題研究」において、地元企業と連携した商品開発	通年											
科目「課題研究」において、SDGsに取り組む地元企業訪問				4回			2回	1回				
科目「課題研究」において、SDGsを踏まえたビジネスプラン作成	通年											
商業の科目において、コンソーシアム等の地元企業人と交流				1回		2回	3回	3回	1回	1回	1回	
英語セミナー開催				1回					1回		1回	
校内英語スピーチコンテスト開催										2回		
みえグローバル学生大使として通訳ボランティア等を実施							1回		1回	1回		
海外の高校生等との交流						1回						1回 (中止)
次年度のスウェーデン研修とマレーシア研修の説明会										1回		

実施												
全生徒・コンソーシアム等を対象とした成果発表会										1回		
効果測定の開発・検証 (AiGROW)				1回	1回	1回				1回	1回	1回

## (2) 実績の説明

### ① 研究開発の内容や地域課題研究の内容

#### (ア) SDG s 推進プログラム開発

- ・ SDG s 基礎プログラムとして、教員研修を実施するとともに、すべての教科・科目でSDG sに関連する授業を1回以上実施した。
- ・ SDG s 探究プログラムとして、科目「課題研究」において、SDG sに取り組む伊勢市内の企業の取材や、廃棄食材を使用した商品開発などを実施した。
- ・ SDG s 語学力向上プログラムとして、英語コミュニケーション能力を高めるため、終日英語のみで会話する学年別英語セミナー（国際科）や、校内スピーチコンテストを実施した。

#### (イ) 観光都市を描くプログラム開発

- ・ 伊勢志摩PRプログラムとして、科目「ビジネス情報管理」において伊勢志摩PR動画を作成し、学校ホームページに掲載するとともに、観光甲子園にも応募した。また、みえグローバル学生大使（三重県雇用経済部国際戦略課事業）の委嘱を受けたESS部を中心に、外国クルーズ船が鳥羽港寄港時に、観光案内における通訳ボランティアなどの活動を実施した。
- ・ 国際交流プログラムとして、9月にオーストラリア姉妹校の生徒を受け入れ、校内外で生徒同士の交流を実施した。また、SDG sや観光についての海外研修プログラム作成のため、スウェーデン（10月）とマレーシア（12月）の視察を実施した。

### ② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

#### ・ SDG s 基礎プログラム

全教科・科目で、教科・科目の特性を生かした授業を实践（例えば、現代社会の諸課題である「地球環境問題」、「資源・エネルギー問題」、「国際経済の動向と貧困の解消」等についての考察を深めるため、グループ討議や発表）

#### ・ SDG s 探究プログラム

商業科目「課題研究」において、地域の廃材を活用した商品開発や持続可能な社会の実現に向けたビジネスアイデアの考案

#### ・ SDG s 語学力向上プログラム

外国語科目「コミュニケーション英語Ⅰ」において、SDG s 基礎プログラムで学んだことを校内スピーチコンテストの場で発表

#### ・ 伊勢志摩PRプログラム

商業科目「ビジネス情報管理」において、伊勢志摩PR動画を作成し、本校ホームページに掲載

ESS部において、みえグローバル学生大使の委嘱を受けて、SNS（Instagram）を

利用した三重県の紹介や、外国クルーズ船寄港時における通訳ボランティアの実施

- ・ 国際交流プログラム

- オーストラリア姉妹校受入を行い、授業（国語、理科、体育、家庭、英語）で生徒同士の交流を実施

- ③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・ 環境教育アドバイザーによる教員研修やワークショップを行い、生徒・教員ともにSDGsに関連する知識を習得する機会を設けるとともに、教科を横断した授業研究会を実施した。

- ・ 各教科において、SDGsの視点を踏まえた学習内容は何かを検討し、それに基づいた授業を各教科・科目で1回以上実施した。また、それらを地域課題研究委員会で集約し、本事業の目的実現に向けたPDCAサイクルの構築につなげるための検討を行った。

- ④ 類型毎の趣旨に応じた取組について

- (ア) 地域の特性を踏まえつつ、グローバルな社会課題・地域の社会問題の解決に向けた学びや生徒のキャリアデザインを促すための取組

- ・ SDGs講演会を開催し、SDGs全般と環境についての説明、価値観の転換と暮らし方の見直し、それらに必要な想像力についての話を聞くとともに、ジェスチャーゲームで人との表現の違いから多様性を体感し、価値観を広げる活動をした。

- ・ 地域研究をとおして地元の理解を深め、地元JA等と連携して、廃棄食材や特産品を使用した商品開発を実施した。

- (イ) 外国語教育において、地域との関連から英語のコミュニケーション能力を高める取組

- ・ 伊勢志摩を訪れる海外からの旅行客（インバウンド）に向けて、英語で伊勢志摩の魅力を発信するPR動画を作成した。

- (ウ) 外国語教育におけるディスカッション等の主体的な学びを促す取組

- ・ 教科英語において、語学力の向上と異文化理解等を深めるため、英語のスピーチ原稿等を作成し、校内外のスピーチコンテスト（第36回全商英語スピーチコンテスト三重県大会等）で発表した。

- (エ) 海外の学校との定常的な連携による海外研修等

- ・ 英語へのモチベーションが高い生徒がホストファミリーとしてオーストラリア姉妹校生徒を受け入れ、生徒同士の交流を実施した。なお、参加生徒による3月のオーストラリア姉妹校への海外研修については、新型コロナウイルス感染防止のため、中止することとなった。

- ・ スウェーデン研修プログラムの開発

- 次年度実施計画として、SDGsの視点を踏まえた地域リーダーを育成するため、SDGsの理念に基づいた経営をしている企業への訪問や現地の高校生との交流を計画。また研修後は、伊勢市の高校生議会への参加や、地域向けSDGsPR等にてリーダー資質向上をめざす。

- ・ マレーシア研修プログラムの開発

- 次年度実施計画として、伊勢志摩の基幹産業である観光業等で活躍する人材を育成するため、実際のエコツアー等を体験する研修を計画。研修後は、エコツアーの企画・運営等、新しい地域活性化策等を提案することでリーダー資質向上をめざす。

(オ) 海外からの留学生等と一緒に学ぶ探究的な活動

- ・ オーストラリア姉妹校の生徒と、お互いの国のSDGs取組に関する意見交流を行った。

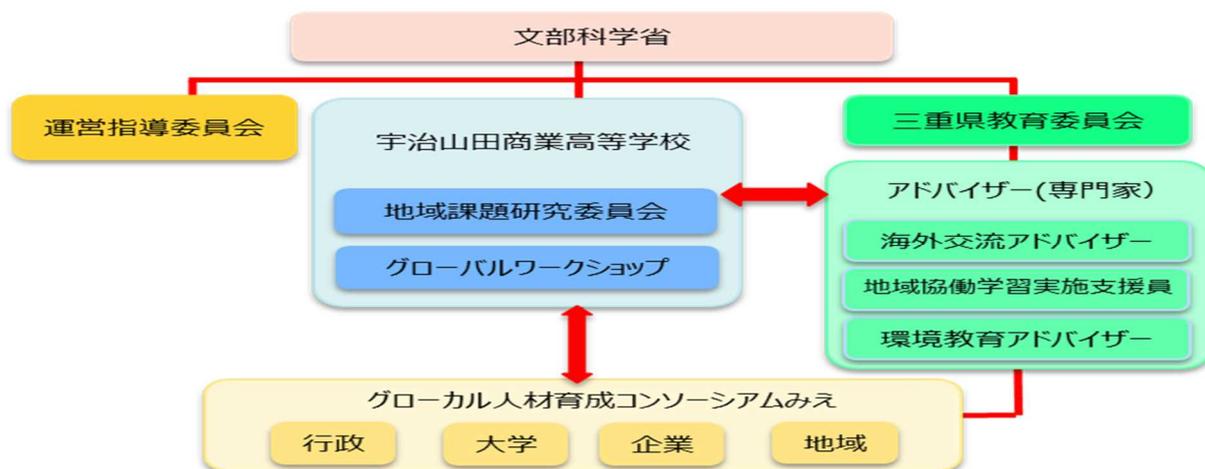
(カ) 地域への理解を深めるための取組

- ・ みえグローバル学生大使として、鳥羽市に寄港した外国クルーズ船の乗客を案内する通訳ボランティアや、伊勢市を訪れた中国の清華大学生を英語で会話しながら伊勢神宮内宮やおはらい町の案内を行った。3月に予定されていた通訳ボランティアは新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。
- ・ 教科商業の科目において、SDGsをテーマとした持続可能な社会の実現に向けたビジネスアイデアを考え、日本経済大学で開催された「高校生ビジネスアイデアコンテスト」の本選に出場した。

⑤ 成果の普及方法・実績について

- ・ 保護者や地域の本事業に係る委員、地域の中学校教員、県立高校教員に案内し、1月31日に成果発表および報告会を開催して共有、普及を図った。

(3) 研究開発の実施体制について



① 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成するため、学校に地域課題研究委員会を設置し、生徒が「地球市民力」と「未来創造力」を身に付けられるプログラムの開発・実践を行うとともに、海外交流アドバイザーや、環境教育アドバイザーや地域協働学習実施支援員（外部人材）を活用し、プログラムの充実を図った。また、伊勢志摩地域を支える人材育成を考える「グローバル人材育成コンソーシアムみえ」を構築し、産学官のスムーズな連携による探究的な学びを実施した。

さらに、事業のPDCAサイクル構築に向けて、本事業の目的や取組の方向性を踏まえた学習活動等が実践できているかを運営指導委員会で効果等の検証を行い改善を図った。

② 学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

- ・ 地域課題研究委員会において、推進担当者を中心に、各プログラム内容について時点修正をしながら協議を進めるとともに、地域協働担当者や海外研修担当者を校内に設置し、地域と連携した取組や海外研修プログラムを作成した。

- ・ 次年度実施する海外研修プログラムに関しては、海外交流アドバイザーやSDGsアドバイザーの助言を受けながら開発した。
- ③ 校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて
- ・ 校内の地域課題研究委員会で各プログラム作成の進捗報告や実践報告を行い、改善策などについて検討した。
  - ・ アンケートの作成・実施（2月）を行い、その成果を検証し、次年度への改善につなげた。
- ④ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について
- ・ コンソーシアム会議にて、今後の取組に関する現状と課題について協議し、意見交換を行うとともに、外国人労働者との交流や商品開発等における講師派遣等にも協力いただいた。また、次年度の課題研究テーマについても協議していただくとともに、コンソーシアムの協力体制を整えていただいた。
  - ・ 環境教育アドバイザーによるSDGs講演会を開催し、創造力を高める、視野を広げる、価値の転換、豊かな心を持つことが大切であることを学んだ。
  - ・ 地域研究をとにおいて、地元への理解を深め、地元愛を育むとともに、地元JA等と連携して、廃棄食材を使用した商品開発を実施した。

## 8 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 「地球市民力（課題解決力・地域への貢献力等）」と「未来創造力（企画力・創造力・実践力等）」の育成

- ① 地域や企業等と連携した取組や外国人との国際交流活動等をとおして、「地球市民力」と「未来創造力」が身につけているかを生徒アンケート等により把握（本年度は2月に実施）した。

指標（アウトカム）	2018年度	2019年度	目標値
「地球市民力」と「未来創造力」が身に付いた生徒の割合	59%	61%	70%

◎ IGS株式会社のAiGROWを活用した測定

本事業で有意性が認められたのは、「創造性」と「協働性」、「地球市民」の3つ。特に「創造性」と「表現力」と「影響力の行使」については高い有意性が認められた。一方で、「課題設定」と「論理的思考」と「個人的実行力」について課題があることが分かったので、次年度以降のプログラムに反映する。

分野	コンピテンシー	事前	事後	変化	有意差	t検定 ※2
認知系	課題設定 ※1	0.567	0.568	0.000	なし	0.484
	論理的思考 ※1	0.563	0.571	0.008	なし	0.115
	疑う力	0.574	0.579	0.005	なし	0.205
	創造性 ※1	0.509	0.542	0.032	あり	0.000
自己系	個人的実行力 ※1	0.638	0.629	-0.008	なし	0.117
	自己効力 ※1	0.553	0.563	0.010	ややあり	0.055
	耐性	0.601	0.600	-0.001	なし	0.457
	決断力	0.590	0.586	-0.004	なし	0.251
他者系	表現力	0.537	0.553	0.016	あり	0.008

	共感・傾聴力	0.613	0.605	-0.008	なし	0.119
	柔軟性	0.576	0.580	0.004	なし	0.257
	影響力の行使 ※1	0.460	0.488	0.027	あり	0.000
コミュニティ系	地球市民 ※1	0.523	0.536	0.012	あり	0.024

※1 本事業で育成したい資質・能力。「協働性」は「自己効力」と「影響力の行使」の組み合わせで定量化

※2 t検定とは、事前と事後の変化がプログラムの効果によるものと仮説を立て、実行したプログラムの有意性を検証した結果

## (2) 地元に着用して活躍する地域人材の育成

本事業は、「持続可能な未来を創造できるグローバルな視点を持った地域社会のリーダー」を育成することを目的としており、地元で就職し、地元に着用する人材を育成する必要があることから、企業アンケートにより職場着用の状況を継続して把握するとともに、各プログラムに地域の魅力や働くことの意義等について理解する学習内容を反映する。

指標 (アウトカム)	2018年度	2019年度	目標値
地元就職者のうち、高校卒業後に入社した地元企業での職場着率	73.3%	76.0%	80%

※ 職場着率は、2016年度卒業生から当年度卒業生までの職場着率状況を企業アンケートから把握

## (3) 語学力の向上

SDGs 語学向上プログラムにおいて、英語のみを使用する環境を創出するとともに国際交流活動の充実を図ることで、英語コミュニケーション能力の向上及び異文化理解の促進を図る。次年度からは、学校設定科目「グローバル・コミュニケーション」を新設して、英語コミュニケーション力等の一層の向上をめざす。

指標 (アウトカム)	2018年度	2019年度	目標値
卒業時における生徒 (200人) の4技能の総合的な英語力としてのCEFRのA2レベル以上の生徒の人数	84人	64人	120人

## (4) 地域人材を育成する高校としての活動について

グローバルな課題解決のために必要なIT関連の競技大会にて全国優勝するとともに、高校生ビジネスアイデアコンテストで入賞するなど多くの生徒が全国で活躍した。また、本県の「みえグローバル学生大使」として任命され、地域における国際交流活動を3回行った。

指標 (アウトカム)	2018年度	2019年度	目標値
グローバルな社会又は地域のビジネス課題に関する公共性の高い全国大会等における入賞者数	2.5%	5.7%	10%
みえグローバル学生大使として、地域において国際交流活動に参加	—人	29人	120人

## (5) 地域人材を育成する地域としての活動について

コンソーシアムを構築し、伊勢志摩地域における未来のリーダーを育成する取組を進めた。商業科の科目「課題研究」をはじめ「ビジネス経済応用」「ビジネス情報管理」「財務会計Ⅱ」等において、地元企業、地方自治体、大学等の多分野から講師を招聘し、学習内容の充実を図ることができた。次年度からは、卒業までの3年間のうち1回はインターンシップ等の体験ができる体制を検討し、順次実施する。

指標（アウトカム）	2018年度	2019年度	目標値
SDG s 推進プログラム」及び「観光都市を描くプログラム」への企業・地方自治体・企業等の協力者数	－ 人	40 人	50 人
地元企業でインターンシップ等を体験した生徒の割合	32.1%	42.0%	100%

<添付資料>目標設定シート

## 9 次年度以降の課題及び改善点

### (1) SDG s 推進プログラムの開発

#### ① SDG s 基礎プログラム

本年度は、SDG s について講演会の実施や、すべての教科・科目でSDG s に関する授業を実施したが、次年度以降は年間をとおして体系的に全教科・科目でSDG s に関連する知識・技術を育成する必要がある。

#### ② SDG s 探究プログラム

3年次の科目「課題研究」において、1・2年次で学習したSDG s の知識・技術を生かしてさらに思考力・判断力・表現力等が高めるための探究的な学びへと改善する必要がある。

#### ③ SDG s 語学力向上プログラム

学校設定科目「グローバル・コミュニケーション」を設置し、海外からの留学生等との交流会やディスカッション及びディベート等をとおして、英語コミュニケーション力の向上を図るとともに、語学力の向上や異文化理解をさらに深める。

### (2) 観光都市を描くプログラム開発

#### ① 伊勢志摩PRプログラム

科目「課題研究」では、観光に特化したテーマを新たに設置し、観光資源（自然・歴史・食等）が豊かな伊勢志摩地域を活性化するための取組を行う。

#### ② 国際交流プログラム

伊勢市高校生議会に参加し、伊勢市の持続可能な未来を創る企画提案等を行うため、SDG s の先進国であるスウェーデンで研修を実施するとともに、伊勢志摩のエコツアー開発などを進めるため、観光に力を入れているマレーシアで研修を実施する。

### (3) 効果測定の開発・検証

#### ① パフォーマンス・ポートフォリオに関する評価規準の策定

- ・ 本年度、パフォーマンス課題等に対するルーブリック開発により評価規準が明確になったが、校外における活動等に関する評価規準を検討する必要がある。

#### ② 資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用した各種プログラムの効果測定

- ・ IGS株式会社と連携し、資質・能力測定ツール「AiGROW」を活用し、継続して生徒の資質・能力の伸びを把握するとともに、効果的なプログラムの開発を行う。

## 【担当者】

担当課	高校教育課	TEL	059-224-3002
氏名	辻井 伸文	FAX	059-224-3023
職名	指導主事	e-mail	kokokyo@pref.mie.lg.jp